

平成 25 年 7 月 16 日
相模原市発表資料

件 名

平成 2 5 年上半期(1 月～ 6 月)における火災及び救急概要

問い合わせ先

消防局 予防課 (火災関係)

751-9117

警防・救急課 (救急関係)

751-9142

平成 25 年上半期（1 月～6 月）における火災の概要

平成 25 年上半期（1 月～6 月）に 95 件の火災が発生しました。
火災による死者は 6 人で、負傷者は 13 人です。

① 出火件数は、前年に比べ 1 件の増加

出火件数は 95 件で、前年に比べると 1 件増加しました。

火災種別ごとに見ると、建物火災は 47 件で 4 件減少し、林野火災が 3 件で 2 件増加しました。車両火災は 4 件で 8 件減少したのに対し、その他の火災は 41 件で 11 件増加しました。

② 出火原因の第 1 位が「放火（疑い含む）」、続いて「たばこ」

全火災 95 件を出火原因別にみると、「放火（疑い含む）」が 20 件（20.1%）で第 1 位、続いて「たばこ」14 件（14.7%）、「こんろ」と「火遊び」が 8 件（8.4%）、「たき火」5 件（5.3%）の順となっています。

③ 火災による死者は 6 人、前年に比べ 1 人の増加

火災による死者は 6 人で、前年に比べると 1 人増加しました。火災種別ごとにみると、建物火災 5 人、その他の火災 1 人となっています。

死者 6 人の内訳は、放火自殺 2 人、その他 4 人となっています。

負傷者については、13 人で 5 人減少しました。

④ 建物焼損棟数、焼損面積及び損害額は前年に比べ減少

焼損棟数は 62 棟で、前年に比べ 5 棟減少しました。

焼損面積は 657 m²で 1,183 m²減少しました。

損害額は 4,930 万 1 千円で 5,952 万 7 千円と大きく減少しました。減少した理由としては、昨年 3 月に発生した工場火災と同規模（損害額 6,189 万円）の火災が発生していないことによるものです。

⑤ 建物火災の焼損面積は、前年に比べ 1,183 m²減少

建物火災の焼損面積は 657 m²で、1,183 m²減少しました。減少した理由としては、住宅用火災警報器の普及により、早期の 119 通報や初期消火活動により被害が軽減されたことによるものと推測している。

◆ 火災の出火原因のトップが「放火（疑い含む）」

相模原市の火災の発生原因として「放火（疑い含む）」が第1位になっています。

放火による火災を防止するには、整理整頓と監視が大切です。下記のチェックポイントにそって一度身の回りを点検してください。

☆☆☆放火防止のための安全チェック☆☆☆

- ・ ☐ 家の周りに燃えやすいものを置かない、また、枯草は刈り取っておく
- ・ ☐ ごみは、決められた日時に出す
- ・ ☐ センサー付きライトなどを設置し、夜間も家の周りを明るくしておく
- ・ ☐ 物置や車庫にはカギをかける
- ・ ☐ 車やオートバイのカバーには、防災製品を使用する

◆ たばこによる火災を防ぎましょう

たばこを原因とした火災の多くは、喫煙者の火気管理がしっかりしていなかった場合や不注意等により発生していると言えます。喫煙しているかたは、「たばこ」による火災を防止するため、次のことに留意してください。

- たばこの投げ捨てをしない。
- 寝たばこは絶対にしない。
- 火のついたたばこを放置しない。
- 歩行中は喫煙しない。

◆ 火のそばを離れない

住宅火災の原因で「こんろ」によるものが8件発生しました。中でも天ぷら油による火災は、てんぷら油の危険性は広く知られているにもかかわらず、なかなか後を絶たず、本市出火原因でも毎年上位を占めています。

こんろを使用しているときは、「少しだけなら」と火のそばを離れるのは絶対にやめてください。どんな場合でも火を止めるまでは、目を離さないようにしてください。

◆ 「住宅用火災警報器」の設置はお済ですか？

住宅用火災警報器の警報により「火災に至らなかった」、「被害が軽減できた」という事例が報告されています。

まだ、住宅用火災警報器を設置していない方は、早急に設置をお願いします。

また、既に設置済みの方につきましては、取扱説明書に従い、定期的なお手入れをお願いします。

問い合わせ先 消防局予防課 042-751-9117

火災概要

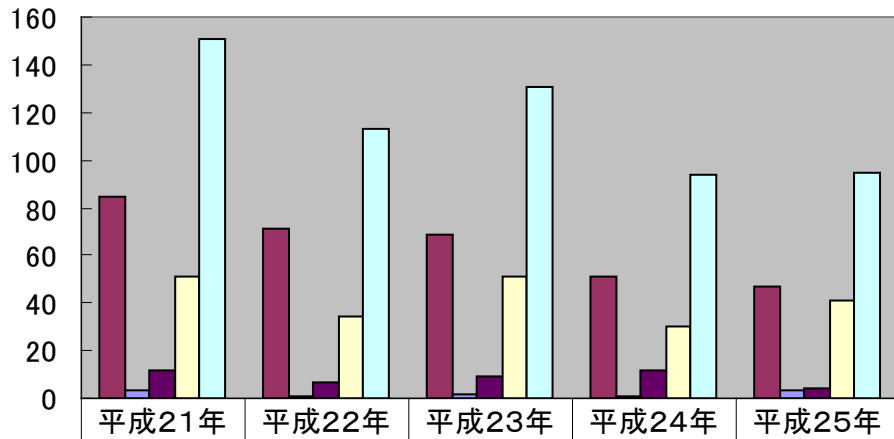
資料

項 目			平成 25 年	平成 24 年	増 減
合 計 (件数)			95	94	1
火災種別	建物	件 数	47	51	△4
		面積(m²)	657	1,840	△1,183
	林野	件数	3	1	2
		面積(a)	21	17	4
	車 両		4	12	△8
	船 舶		0	0	0
	航 空 機		0	0	0
	その他	件 数	41	30	11
		面積(a)	27.01	34.62	△7.61
原因別	失 火(構成比)		63 (66.3)	68 (72.4)	△5
	放火(疑い含む)(構成比)		20 (21.1)	16 (17.0)	4
	不 明(構成比)		12 (12.6)	10 (10.6)	2
焼 損 棟 数			62	67	△5
り 災 世 帯			48	42	6
り 災 人 員			95	96	△1
死 者			6	5	1
負 傷 者			13	18	△5
損 害 額 (千円)			49,301	108,828	△59,527

出火原因

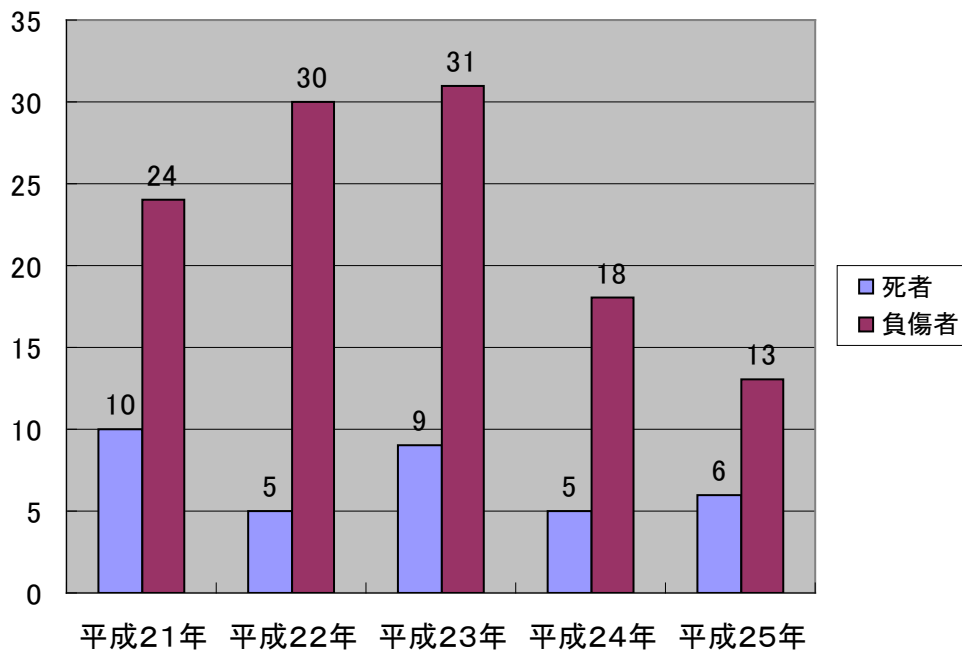
平 成 25 年 95 件			平 成 24 年 94 件		
順位	出 火 原 因	件 数	順位	出 火 原 因	件 数
1	放火(疑い含む)	20(21.1%)	1	た ば こ	17(18.1%)
2	た ば こ	14(14.7%)	2	放火(疑い含む)	16(17.0%)
3	こ ん ろ	8(8.4%)	3	こ ん ろ	13(13.8%)
3	火 あ そ び	8(8.4%)	4	電灯等の配線	6(6.4%)
5	た き 火	5(5.3%)	5	火 あ そ び	5(5.3%)
そ の 他		40(42.1%)	そ の 他		37(39.4%)

過去5年上半期火災件数



建物	85	71	69	51	47
林野	3	1	2	1	3
車両	12	7	9	12	4
その他	51	34	51	30	41
合計	151	113	131	94	95

過去5年火災に伴う死傷者数



平成 25 年上半期の救急概要について（相模原市）

昨年は 3 年ぶりに減少した救急件数が、再び増加に転じました。

平成 25 年上半期の救急出場件数は 16,512 件、搬送人員は 14,896 人で、前年の同時期と比べ救急出場件数は 1,005 件、搬送人員は 761 人増加しています。

救急出場件数の増加した要因としては、1 月の首都圏を直撃した降雪の影響やインフルエンザの流行などが考えられます。

救急出場件数を分析すると、1 日平均約 91 件、約 16 分に 1 回の割合で救急車が出場したことになります。

また、救急車で搬送された人の中で約 50.0% の人は、入院を必要としない軽症者でした。救える命を救うために、本当に救急車を必要としている人が早期に利用できるように、119 番通報する前に落ち着いて状況を判断し、「緊急ではない」「交通手段がない」などの場合には、患者等搬送事業者（民間救急）、自家用車やタクシーを利用いただき、救急車の適正利用にご協力をお願いします。

夜間や休日における市内の医療機関の案内は、相模原市救急医療情報センター【Tel 042-756-9000】をご利用ください。

猛暑日が続き、熱中症に伴う救急搬送が増加しています。昨年度の同時期と比較すると、約 8 倍の傷病者が搬送されており、そのうち高齢者の方の搬送が、約半数を占めています。高齢者は、暑さや水分不足に対する感覚機能が低下しており、暑さに対する身体の調整機能も低下しているため、特に注意が必要です。

熱中症を予防するには、暑さを避け、水分・塩分をこまめに補給することが大切です。日頃から自分や家族の体調の変化に気をつけ、熱中症による健康被害を防ぎましょう。

問い合わせ先 消防局警防・救急課 042-751-9142

救急業務実施状況（上半期）

（１）救急概要

平成２５年上半期は、救急出場件数１６，５１２件、搬送人員１４，８９６人で前年同時期に比べ出場件数は１，００５件、搬送人員においては７６１人増加しました。

このことは、市内で１日平均約９１件、約１６分に１回の割合で救急隊が出場したことになります。

また、覚知（入電）から救急隊が救急現場に到着するまでの平均所要時間は、７分５１秒でした。

（平成２５年４月１日現在の人口：７１８，６０２人）

救 急 活 動 状 況

事 故 種 別 区 分		平成２５年 (A)	平成２４年 (B)	増減(C) (A-B)	増減率(%) (C/B×100)
救 急 出 場 件 数		16,512	15,507	1,005	6.5%
傷病者搬送件数		14,752	14,019	733	5.2%
不 搬 送 件 数		1,760	1,488	272	18.3%
事 故 種 別 内 訳	火 災	68	70	-2	-2.9%
	自 然 災 害	2	4	-2	0.0%
	水 難	4	4	0	0.0%
	交 通	1,483	1,473	10	0.7%
	労 働 災 害	135	138	-3	-2.2%
	運 動 競 技	114	88	26	29.5%
	一 般 負 傷	2,086	1,937	149	7.7%
	加 害	114	122	-8	-6.6%
	自 損 行 為	177	190	-13	-6.8%
	急 病	10,306	9,668	638	6.6%
	そ の 他	1,404	1,357	47	3.5%
	転院搬送	9	0	9	0.0%
	医師搬送	5	11	-6	-54.5%
	資材搬送	605	445	160	36.0%
搬 送 人 員		14,896	14,135	761	5.4%
性 別	男 性	8,005	7,495	510	6.8%
	女 性	6,891	6,640	251	3.8%
程 度 別	死 亡	257	207	50	24.2%
	重 症	1,178	1,328	-150	-11.3%
	中 等 症	6,016	5,257	759	14.4%
	軽 症	7,442	7,340	102	1.4%
	そ の 他	3	3	0	0.0%

*少数点以下は四捨五入

(2) 救急隊別活動状況

平成25年上半期の救急出場件数16,512件を救急隊別にみると、相模原本署隊が1,659件、南本署隊が1,548件で以下淵野辺隊、上鶴間隊、大沼隊、となっています。

また、1隊あたりの平均出場件数は約971件となっています。
相原救急隊は、平成24年4月1日から運用しています。

救 急 隊 別 出 場 件 数

隊別		平成25年		平成24年		対前年比	
		出場件数	構成比	出場件数	構成比	比較増減	増減率
相模原本署	本署	1,659	10.0%	1,598	10.3%	61	3.8%
	田名	690	4.2%	667	4.3%	23	3.4%
	淵野辺	1,313	8.0%	1,256	8.1%	57	4.5%
	緑が丘	1,235	7.5%	1,171	7.6%	64	5.5%
	上溝	1,022	6.2%	1,029	6.6%	-7	-0.7%
南署	本署	1,548	9.4%	1,495	9.6%	53	3.5%
	新磯	572	3.5%	499	3.2%	73	14.6%
	大沼	1,271	7.7%	1,234	8.0%	37	3.0%
	相武台	1,190	7.2%	1,093	7.0%	97	8.9%
	上鶴間	1,272	7.7%	1,175	7.6%	97	8.3%
北署	本署	1,213	7.3%	1,197	7.7%	16	1.3%
	大沢	788	4.8%	874	5.6%	-86	-9.8%
	相原	745	4.5%	323	2.1%	422	130.7%
	城山	701	4.2%	726	4.7%	-25	-3.4%
津久井署	本署	495	3.0%	429	2.8%	66	15.4%
	派出所	476	2.9%	457	2.9%	19	4.2%
	藤野	322	2.0%	284	1.8%	38	13.4%
計		16,512	100%	15,507	100%	1,005	6.5%
1隊あたりの件数		971		912		59	6.5%

*少数点以下は四捨五入

(3) 搬送人員

平成25年上半期の搬送人員14,896人のうち、急病が9,483人と最も多く、以下一般負傷が1,949人、交通事故が1,481人と続いています。

搬送人員を前年と比較すると全体として5.4%の増加となっています。

事故種別搬送人員

事故種別 順位	平成25年		平成24年		対前年比	
	搬送人員	構成比	搬送人員	構成比	比較増減	増減率
1 急病	9,483	63.7%	8,940	63.2%	543	6.1%
2 一般負傷	1,949	13.1%	1,829	12.9%	120	6.6%
3 交通	1,481	9.9%	1,477	10.4%	4	0.3%
4 転院搬送	1,405	9.4%	1,354	9.6%	51	3.8%
5 労働災害	135	0.9%	137	1.0%	-2	-1.5%
6 自損行為	125	0.8%	133	0.9%	-8	-6.0%
7 運動競技	114	0.8%	88	0.6%	26	29.5%
8 加害	106	0.7%	103	0.7%	3	2.9%
9 その他	77	0.5%	53	0.4%	24	45.3%
10 火災	13	0.1%	17	0.1%	-4	-23.5%
11 水難	6	0.0%	1	0.0%	5	0.0%
12 自然災害	2	0.0%	3	0.0%	-1	0.0%
計	14,896	100%	14,135	100%	761	5.4%